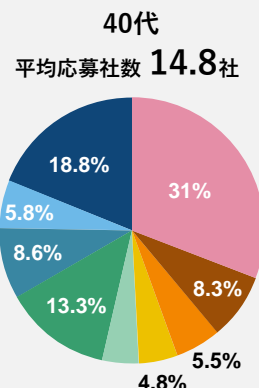
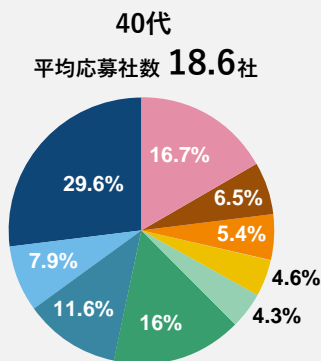
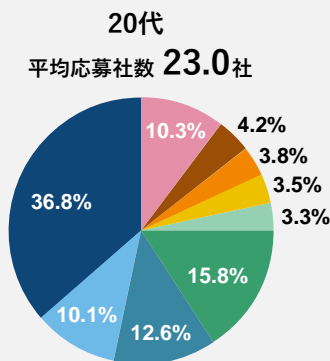


# 求職者が貴社へのモチベーション(志望度)を維持できない理由

一人当たりの応募社数が増えたため、1社1社への**就業意欲が分散されてしまう！**

転職成功者の年代別平均応募社数

1 社 2 社 3 社 4 社 5 社 6~10 社 11~15 社 16~20 社 21 社



現代の就職活動は、多くの応募をすることが一般的となっています。応募数が多くなると、応募者にとって唯一無二の希望先でない限り、他社求人への目移りなどにより時間の経過とともに就業意欲が薄れてしまいます。就業意欲低下は面接キャンセルや内定辞退に繋がり、応募者を採用に結びつけることができなくなってしまいます。応募者を入社へ導くには、就業意欲を自社に向けさせるようなアプローチが必要になってきます。

(データ抽出元：パーソルキャリア)

求職者の応募社数が増加している一方で、応募者数自体は減少傾向が続いています。企業が人材を必要とする「労働需要」に対して、市場からの労働力供給量は年々減少し、**2030年には644万人もの人手不足が発生する予測です。**応募者獲得競争はますます激化が予測されるため、**採用ターゲットを早く・確実に選別し、長期的に活躍できる人材の採用をするためのスキーム構築（採用力を上げていくこと）が重要です。**

採用力強化をお考えの企業様はプロの採用コンシェルジュが入社へ導くコンシェル&テックにご相談ください！